



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第157号

2007年5月3日

いよいよゴールデンウィーク後半が始まりました。皆さん、如何お過ごしですか？文博では学生アルバイトさんを迎え、皆さんのお越しをお待ちしています！

● ギャラリートークがありました

4月21日と28日に「春季特別展 山種美術館所蔵 美人画の世界」ギャラリートークを開催し、当館学芸員の吉田さんが約30分間の解説を行いました。急に決まったために事前にチラシ等でご案内できなかったにもかかわらず、館内アナウンスを聞いた30名以上の方々にお集まりいただきました。



ギャラリートークに聞き入る

参加者の皆さん

大正から平成までの多くの作家さんの作品を集めた本展の特徴を活かし、作品ひとつひとつの解説とともに、材質が絹から紙に、描き方がドロ잉からペインティングに変わった、というような美人画の時代変遷や、女性が描く女性と男性が描く女性の違い、東京と京都の画壇の違いについて等、盛りだくさんな内容のギャラリートークとなりました。

● 新たな仲間です

ゴールデンウィーク中は、神戸学院大学の学生さん3人にお手伝いに来てもらっています。受付や南出口、ギャラリーに交代で立っています。伊東さんは「お客様に気



笑顔で「いらっしゃいませ！」

さくに話しかけてもらえて、昔のことについて教えてもらえました。塩井さんは「受付がこんなに忙しいと思わなかったです」とGWの混雑に驚いた様子、橋本さんは「博物館は触っちゃいけないところと思っていたので、体験コーナーに驚きました」とそれぞれ感想を語ってくれました。

ギャラリートークを聞いてから絵を見ると、想像が膨らんだり、絵がそれまでと違った印象に見えたりして面白いですよね。本展でも大人気の上村松園さんについて「美しい女性をただ描いているのではない。女性の気品を描こうとしていた」という解説を聞いて、「内面を磨くことが、美しい女性になる一歩なのだなあ」と思いました。